

# いぶき（GOSAT）観測体制強化及びいぶき後継機開発体制整備

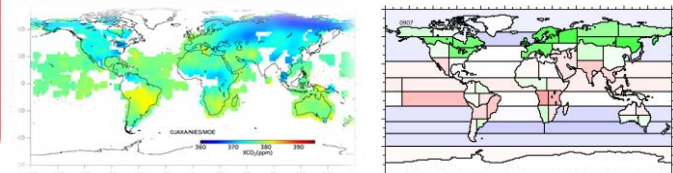
平成25年度補正  
予算額1,045百万円

## 世界で唯一の温室効果ガス観測技術衛星・いぶきの使命

平成21年に打ち上げられた「いぶき」は、順調に観測を続けており、全球を多点かつ精度良く観測しているが、平成26年1月には設計寿命を迎える。



世界をリードする温室効果ガスの多点観測データを提供することにより、我が国の国際社会における貢献を継続的に果たすため、平成29年度打ち上げを目標として平成24年度より「いぶき」後継機の開発に着手。  
平成25年度補正予算では、人工衛星バス及び観測データ処理システムの開発等の一部を前倒して実施。



## 後継機開発・年次計画（予定）

### 期待される効果

- 大都市単位あるいは大規模排出源単位での二酸化炭素等の排出把握を行い、アジア諸国等におけるJCM実施の効果検証に資する。
- 二酸化炭素等の排出削減に加え、ブラックカーボン（BC）の都市単位の総合的な測定等を行い、気候変動対策を含む総合的な環境対策の進展を図る。
- 国別、準国別のエネルギー起源二酸化炭素の排出状況及びその削減ポテンシャルを把握し、途上国を中心に低炭素化に向けた施策立案等につなげる。
- REDD+活動の温室効果ガス削減・吸収効果を定量的・客観的に把握し、世界の森林の減少・劣化に伴う温室効果ガスの排出の削減に貢献する。

年度	H24～H25	H26	～	H29	H30～
<b>環境省</b>					
・人工衛星バスの設計・開発	→				
・打ち上げサービスの調達	→				
・搭載センサ設計・開発	→				
（26年度よりエネルギー対策特別会計で要求）					
・後継機の運用					→
・観測・データ処理過程の統合的高度化	→				
・REDD+のMRVシステムの開発	→				
・地上・航空機観測による後継機開発のための検証体制強化	→				
・後継機観測データ検証作業					→
<b>（独）国立環境研究所</b>					
・後継機観測データ処理システムの開発等	→				

